

病) 5 事業 (小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療) に精神医療を加えた 5 疾病 5 事業に関する記述がされることになっている。今回藤森が開発した可視化ツールを用いることで 5 疾病 (脳卒中、心筋梗塞、悪性腫瘍、糖尿病、精神疾患) と 3 事業 (小児医療、救急医療、周産期医療) 及び今回の医療計画で重視される在宅医療について二次医療圏ごとの受療動向を分析することができる。以下、粕屋医療圏について分析を試みる。

図 12 に可視化ツールの初期画面を示した。大分類→中分類→指標名を選択し、さらに年齢区分と入外区分を選択することで当該指標の二次医療圏別の受療動向が表とグラフで示される。

- i) 脳卒中： 図 13 は主傷病が脳梗塞・一過性脳虚血患者の入院症例について示したものである。粕屋医療圏では分析期間中に 1242 件の該当するレセプトがあり、そのうち 70%弱は粕屋医療圏の施設に入院している。残りの大半 (約 25%) は福岡糸島医療圏の施設に入院している。図 14 は主傷病が脳梗塞・一過性脳虚血患者の外来症例について示したものである。粕屋医療圏では分析期間中に 7686 件の該当するレセプトがあり、そのうち 65%は粕屋医療圏の施設に通院している。残りは約 20%が福岡糸島医療圏、約 10%が筑紫医療圏の施設に通院している。図 15 は主傷病がくも膜下出血の入院症例について示したものである。分析期間中に 96 例の症例があり、そのうち 80%が粕屋医療圏、20%が福岡糸島医療圏の施設に入院している。
- ii) 急性心筋梗塞： 図 16 は主傷病が急性心筋梗塞の入院症例について示したものである。粕屋医療圏では 78 件の入院レセプトがあり、そのうち 65%は粕屋医療圏、35%は福岡糸島医療圏の施設に入院している。図 17 は急性心筋梗塞のカテーテル治療のレセプト件数を示したものである。39 例のレセプトがあり、うちそれぞれ 50%が粕屋医療圏と福岡糸島医療圏の施設となっている。
- iii) 悪性腫瘍
  - (ア) 肺がん： 図 18 は肺がんの入院レセプト件数を示したものである。487 例のレセプトがあり、それぞれ 50%が粕屋医療圏と福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の 70%が粕屋医療圏の施設に入院している。図 19 は肺がんの外来レセプト件数を示したものである。1204 例のレセプトがあり、それぞれ 50%が粕屋医療圏と福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の 50%が粕屋医療圏の施設に通院している。図 20 は肺がんの入院手術レセプト件数を示したものである。61 件のレセプトがあり、うち 35%が粕屋医療圏、65%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの全件が粕屋医療圏の施設のものとなっている。
  - (イ) 胃がん： 図 21 は胃がんの入院レセプト件数を示したものである。216 件のレセ

プトがあり、それぞれ45%が粕屋医療圏、55%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの20%が粕屋医療圏の施設のものである。

図 22 は胃がんの外来レセプト件数を示したものである。1872 件のレセプトがあり、うち60%が粕屋医療圏、35%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の15%が粕屋医療圏の施設に通院している。図 23 は胃がんの入院手術（胃全摘術等）レセプト件数を示したものである。59 件のレセプトがあり、粕屋医療圏、福岡糸島医療圏の施設がそれぞれ50%となっている。また、宗像医療圏のレセプトの30%が粕屋医療圏の施設のものである。図 24 は胃がんの入院内視鏡手術レセプト件数を示したものである。30 件のレセプトがあり、うち55%が粕屋医療圏、35%が福岡糸島医療圏の施設となっている。

(ウ) 直腸がん：図 25 は直腸がんの入院レセプト件数を示したものである。104 件のレセプトがあり、35%が粕屋医療圏、65%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの20%が粕屋医療圏の施設のものである。図 26 は直腸がんの外来レセプト件数を示したものである。393 件のレセプトがあり、うち45%が粕屋医療圏、55%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の20%が粕屋医療圏の施設に通院している。図 27 は直腸がんの入院手術（直腸肛門の悪性腫瘍に対する骨盤内臓全摘術等）レセプト件数を示したものである。12 件のレセプトがあり、全例が福岡糸島医療圏の施設となっている。

(エ) 肝がん：図 28 は肝がんの入院レセプト件数を示したものである。277 件のレセプトがあり、45%が粕屋医療圏、50%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの30%が粕屋医療圏の施設のものである。図 29 は肝がんの外来レセプト件数を示したものである。801 件のレセプトがあり、うち55%が粕屋医療圏、40%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の20%が粕屋医療圏の施設に通院している。図 30 は肝がんの入院マイクロ波凝固法レセプト件数を示したものである。69 件のレセプトがあり、60%が福岡糸島医療圏、40%が粕屋医療圏の施設となっている。図 31 は肝がんの入院手術件数（肝切除等）を示したものである。粕屋医療圏は10例未満となっている。

(オ) 乳がん：図 32 は乳がんの入院レセプト件数を示したものである。168 件のレセプトがあり、45%が粕屋医療圏、55%が福岡糸島医療圏の施設となっている。

また、宗像医療圏のレセプトの 25%が粕屋医療圏の施設のものである。図 33 は乳がんの外来レセプト件数を示したものである。1326 件のレセプトがあり、うち 45%が粕屋医療圏、55%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏の患者の 20%弱が粕屋医療圏の施設に通院している。図 34 は乳がんの入院手術件数を示したものである。35 件のレセプトがあり、60%が福岡糸島医療圏、40%が粕屋医療圏の施設となっている。

(カ) 化学療法：図 35 はがんの入院化学療法レセプト件数を示したものである。836 件のレセプトがあり、45%が粕屋医療圏、55%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 35%が粕屋医療圏の施設のものである。

図 36 はがんの外来化学療法レセプト件数を示したものである。969 件のレセプトがあり、うち 35%が粕屋医療圏、60%が福岡糸島医療圏の施設となっている。

(キ) 放射線治療：図 37 はがんの入院放射線治療レセプト件数を示したものである。128 件のレセプトがあり、20%が粕屋医療圏、80%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 30%が粕屋医療圏の施設のものである。図 38 はがんの外来放射線治療レセプト件数を示したものである。79 件のレセプトがあり、うち 20%が粕屋医療圏、80%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 50%弱が粕屋医療圏の施設のものである。

iv) 糖尿病：図 39 は糖尿病の入院レセプト件数を示したものである。591 件のレセプトがあり、70%が粕屋医療圏、20%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 15%弱が粕屋医療圏の施設のものである。図 40 は糖尿病の外来レセプト件数を示したものである。19399 件のレセプトがあり、うち 70%が粕屋医療圏、25%が福岡糸島医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 10%弱が粕屋医療圏の施設のものである。

v) 精神医療：図 41 は精神科救急入院レセプト件数を示したものである。147 件のレセプトがあり、全例が粕屋医療圏以外となっている（福岡糸島医療圏：35%、宗像医療圏：40%、筑紫医療圏 25%）。図 42 は精神科継続外来支援・指導料レセプト件数を示したものである。570 件のレセプトがあり、うち 60%弱が粕屋医療圏、10%弱が福岡糸島医療圏、10%強が筑紫医療圏の施設となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 70%弱が粕屋医療圏の施設のものである。図 43 は精神科デイケアレセプト件数を示したものである。667 件のレセプトがあり、うち 50%弱が粕屋医療圏、20%強が福岡糸島医療圏、20%弱が宗像医療圏の施設となっている。



- vi) 小児医療：図 44 は小児入院レセプト件数（小児入院医療管理料）を示したものである。160 件のレセプトがあり、30%が粕屋医療圏、60%が福岡糸島医療圏、10%が筑紫医療圏となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 45%が粕屋医療圏の施設のものである。図 45 は小児外来レセプト件数を示したものである。12748 件のレセプトがあり、うち 80%弱が粕屋医療圏、10%強が福岡糸島医療圏の施設となっている。図 46 は地域連携小児夜間・休日診療料レセプト件数を示したものである。546 件のレセプトがあり、全例が粕屋医療圏以外となっている（福岡糸島医療圏：40%、宗像医療圏：30%弱、筑紫医療圏 25%）。
- vii) 周産期医療：図 47 はハイリスク分娩管理レセプト件数を示したものである。粕屋医療圏では 10 例未満であるため表示はされていない。分析期間中に福岡糸島医療圏、久留米医療圏、北九州医療圏、京築医療圏で算定されているが、前 3 医療圏はそれぞれの医療圏で自己完結しており、京築医療圏は全例が北九州医療圏の施設で算定されている。図 48 は妊産婦緊急搬送入院加算レセプト件数を示したものである。分析期間中に福岡糸島医療圏、久留米医療圏、北九州医療圏で算定されており、それぞれの医療圏で自己完結している。図 49 は新生児特定集中治療室管理料レセプト件数を示したものである。分析期間中に福岡糸島医療圏、筑紫医療圏、飯塚医療圏、田川医療圏、北九州医療圏で算定されている。田川医療圏を除く 4 医療圏はそれぞれの医療圏で自己完結しており、田川医療圏は全例が飯塚医療圏の施設で算定されている。図 50 は総合周産期特定集中治療室管理料レセプト件数を示したものである。分析期間中に福岡糸島医療圏、久留米医療圏、北九州医療圏で算定され、それぞれの医療圏で自己完結している。図 51 は帝王切開手術レセプト件数を示したものである。36 件のレセプトがあり、55%が粕屋医療圏、45%が福岡糸島医療圏となっている。
- viii) 救急医療：図 52 は救急入院レセプト件数（救急医療管理加算）を示したものである。1101 件のレセプトがあり、60%が粕屋医療圏、30%が福岡糸島医療圏、10%が筑紫医療圏となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 20%弱が粕屋医療圏の施設のものである。図 53 は救命救急入院レセプト件数を示したものである。分析期間中に福岡糸島医療圏、久留米医療圏、飯塚医療圏、北九州医療圏の 4 つで算定されている。粕屋医療圏のレセプトは全例福岡糸島医療圏の施設で算定されている。図 54 は集中治療入院レセプト件数（特定集中治療室管理料・ハイケアユニット入院管理料）を示したものである。606 件のレセプトがあり、40%が粕屋医療圏、50%が福岡糸島医療圏となっている。また、宗像医療圏のレセプトの 20%弱が粕屋医療圏の施設のものである。



ix) 在宅医療：図 55 は訪問診療レセプト件数を示したものである。3771 件のレセプトがあり、約 65%が粕屋医療圏、30%弱が福岡糸島医療圏となっている。また、宗像医療圏のレセプトの約 10%が粕屋医療圏の施設のものである。図 56 は在宅ターミナルケア訪問診療レセプト件数を示したものである。21 件のレセプトがあり、全例が粕屋医療圏の施設のものである。図 57 は訪問看護レセプト件数を示したものである。346 件のレセプトがあり、50%弱が粕屋医療圏、20%強が福岡糸島医療圏、30%が筑紫医療圏の施設となっている。

(3) 医療提供体制分析用データベースを用いた指標作成

表 2 は福岡県全体を標準として各二次医療圏の今回の研究で設定した各指標について示したものである。この指標は各二次医療圏に所属する施設が全体に比べて当該指標で代表される医療行為をどのくらい行っているかを示したものである。1 より大きい場合は県全体より多く、そして 1 より小さい場合は県全体より少ないことを意味する。以下、(2)で示した指標について主な結果を見てみる。

i) 脳血管障害

脳梗塞・一過性脳虚血発作患者入院 (1.671)、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤患者 (主傷病) 入院 (1.166)、非外傷性頭蓋内血腫患者入院 (1.419)、非外傷性頭蓋内血腫患者 (主傷病) 入院 (1.095)、くも膜下出血・破裂動脈瘤患者入院 (1.408)、くも膜下出血・破裂動脈瘤患者 (主傷病) 入院 (1.275)、脳卒中に対するリハビリテーション入院 (1.174)、脳卒中に対するリハビリテーション入院 (1.717)、脳血管障害患者 (全体) 入院 (1.654)、脳血管障害患者 (全体) (主傷病) 入院 (1.236) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。

ii) 急性心筋梗塞：急性心筋梗塞発症患者入院 (1.172)、狭心症患者入院 (1.664)、心大血管疾患に対するリハビリテーション (1.745) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。

iii) 悪性腫瘍

(ア) 肺がん：肺の悪性腫瘍患者入院 (1.511)、肺の悪性腫瘍患者 (主傷病) 入院 (1.422) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。

(イ) 胃がん：胃悪性腫瘍患者入院 (1.193) 以外は、いずれの指標も 1 未満となっている。

(ウ) 大腸がん・直腸がん：大腸の悪性腫瘍患者入院 (1.496)、大腸の悪性腫瘍患者 (主傷病) 入院 (1.173) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。

(エ) 肝がん：肝・肝内胆管の悪性腫瘍入院 (1.242)、肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (主傷病) 入院 (1.141) 以外は、いずれの指標も 1 未満となっている。

- (オ) 乳がん： 乳房の悪性腫瘍入院 (1.286)、乳房の悪性腫瘍 (主傷病) 入院 (1.272) 以外は、いずれの指標も 1 未満となっている。
- (カ) 化学療法： いずれの指標も 1 未満となっている。
- (キ) 放射線治療： いずれの指標も 1 未満となっている。
- (ク) その他： 緩和ケア病棟入院 (6.800) が県全体より高い率となっている。
- iv) 糖尿病： 糖尿病患者入院 (1.381)、糖尿病患者 (主傷病) 入院 (1.578)、I 型糖尿病患者 (主傷病) 入院 (1.561)、II 型糖尿病患者外来 (1.098)、II 型糖尿病患者入院 (1.425)、II 型糖尿病患者 (主傷病) 外来 (1.115)、II 型糖尿病患者 (主傷病) 入院 (1.908)、糖尿病に対する人工透析入院 (1.621) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。
- v) 精神医療： 精神科デイケア早期加算外来 (1.202)、重度認知症患者デイケア料外来 (7.866)、精神科隔離室管理加算 (全体) 入院 (1.656)、精神科隔離室管理加算 (認知症) 入院 (3.600)、認知症治療病棟入院料 (60 日未満) 入院 (1.811)、認知症治療病棟入院料 (61 日以上) 入院 (2.732)、単極性うつ病の患者入院 (1.689)、単極性うつ病の患者 (主傷病) 入院 (1.105) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。
- vi) 小児医療： 小児科外来診療外来 (1.024)、小児科療養指導料外来 (1.179)、小児特定疾患カウンセリング料 (1.924)、超重症児 (者)・準超重症児 (者) 入院診療加算 (2.948)、乳幼児に対する手術外来 (2.631) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。
- vii) 周産期医療： いずれの指標も 1 未満となっている。
- viii) 救急医療： 救急搬送患者地域連携紹介加算入院 (13.000) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。ただし、この結果については算定件数が少ないため解釈に留意する必要がある。
- ix) 在宅医療： 在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料外来 (1.328)、病院従事者が退院前に患者宅を訪問し指導 (1.083)、在宅患者訪問薬剤指導管理料外来 (5.455)、救急・在宅等支援療養病床初期加算入院 (1.313) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。
- x) 人工透析： 人工透析 (全て) 入院が 1.465 と県全体より高くなっている。
- xi) 地域連携パス： 大腿骨頸部骨折・脳卒中患者の連携パス利用者 (第 2 入院機関) 入院 (1.118) が県全体よりも高い率となっているが、他の指標はすべて 1 未満となっている。

#### D. 考察

以上の結果より、粕屋医療圏は以下のような特徴があることがわかる。

- ・ 救急に関して医療圏北部は福岡東医療センターが中核施設となっているのに対し、南部は福岡青州会病院、仲原病院、篠栗病院など複数の医療施設によって対応がされているという特徴がある。入院の自己完結率をみると脳血管障害は約 70%、急性心筋梗塞は 55%となっている。
- ・ がんに関しては医療圏北部では福岡東医療センター、南部では仲原病院が中核施設となっているが、全MDCには対応しておらず、特に手術症例では診療科が限定されている。特に、この傾向は医療圏南部で顕著である。自己完結率でみると、悪性腫瘍全体で 40～50%にとどまり、特に入院手術症例に関しては胃がんが 50%である以外は、肺がんが 35%、乳がんが 40%、直腸がんに関しては全例が粕屋医療圏以外となっている。がんの化学療法、放射線治療は入院・外来ともに前者が約 35%、後者が約 20%の自己完結率となっている。他方、病院従事者が退院前に患者宅を訪問し指導入院が県全体より高いという特徴もある。これは、北部における在宅医療ネットワークの成果によると考えられる。
- ・ 糖尿病は入院・外来ともに 70%の自己完結率となっている。また、患者数及び人工透析（入院）の SCR が高く、糖尿病の管理が重要な課題であることが推測される。
- ・ 精神医療については、救急入院の全例が他の二次医療圏への入院となっている。重度の認知症などのデイケア、入院については提供量が多い。

以上の結果から総合的に考えると、粕屋医療圏は隣接する福岡糸島医療圏に依存する部分が大きく、したがって医療計画策定に際しては福岡糸島医療圏との連携について十分考慮する必要がある。粕屋医療圏内から福岡糸島医療圏の各施設へのアクセスは非常によく、したがって急性期医療についてこの 2 つの医療圏を個別に考えることは妥当ではないと考えられる。同様の状況は宗像医療圏、筑紫医療圏にも当てはまり、また粕屋医療圏の東部に隣接する宗像医療圏から粕屋医療圏に相当程度の患者流入があること、さらに精神科救急については粕屋医療圏では入院が行われず、福岡糸島医療圏及び宗像医療圏と筑紫医療圏流出していることを考えると、5 疾病（脳卒中、心筋梗塞、悪性腫瘍、糖尿病、精神疾患）3 事業（小児医療、周産期医療、救急医療）については、上記 4 つの医療圏を合わせた広域医療圏として計画を策定することが妥当であろう。

他方、外来医療については、各二次医療圏及びさらに小区域の住民の生活圏域で医療提供体制を充実させる必要がある。粕屋医療圏の初・再診料の SCR が 1 未満でありかつ隣接する福岡糸島医療圏より低いことを考えると、一般的な外来医療についても相当数の住民が福岡糸島医療圏の施設にかかっていることが推察される。一般的な外来診療は住民の生



活圏域で開業している「かかりつけ医」によって管理されることが望ましいし、またそのような基盤があることで特定健診・特定保健制度の有効性も高まると考えられる。粕屋医療圏では糖尿病患者が多いことから、医療と予防の一体的な対応の具体策について検討が必要である。

高齢化の進展と医療技術の進歩により、今後がん患者の継続的管理のニーズが増大することを考えると、化学療法や悪性腫瘍に対応した外来医療・在宅医療の推進も必要である。特に、圏域内での外来化学療法の自己完結率を高める具体的な行動計画が必要である。具体的には福岡東医療センターと仲原病院がそれぞれ医療圏北部と南部の中核施設となり、そこを起点として外来化学療法及び在宅化学療法のネットワークを構築することが考えられる。また、両施設における放射線治療の充実も検討する必要があると考えられる。

在宅医療については、粕屋医療圏の場合、指標上在宅医療の提供量が少なく、また介護との連携に関する指標も低い値にとどまっている。その向上策について今後の検討が必要である。ただし、急性期病院との連携を広域で考える場合、これまでの検討及び図 58 の粕屋医療圏内の医療施設の分布からもわかるように、北部と南部とは区別して考えることが必要である。具体的には北部については福岡糸島医療圏東部の施設との南部については福岡糸島医療圏南部及び筑紫医療圏北部の施設との連携について考慮することが妥当であろう。

以上の結果から医療計画に盛り込むべき数値目標の試案として以下を提示する。

- ・ 脳血管障害： 入院の自己完結率を 80%以上に高めるとともに、tPA などの超急性期の治療が受けられる体制作りを医療圏の北部及び南部で整備する。脳卒中に関する地域連携に関する指標（SCR）が管理料 0.606、指導料 0.652 となっているが、これをそれぞれ 1.000 となるように地域連携の仕組みを検討する。
- ・ 急性心筋梗塞： 入院の自己完結率を 70%以上に高めるために、北部（福岡東医療センター）及び南部（青洲会病院）の基幹施設を中心に循環器の救急医療体制の充実を図る。
- ・ 悪性腫瘍： 肺がん・胃がん・乳がんについては自己完結率を 60%以上になるよう北部（福岡東医療センター）及び南部（仲原病院）の基幹施設を中心に機能の充実を図る。また、化学療法及び放射線治療については、入院外来とも前者が 60%、後者が 40%の自己完結率となるよう域内施設の機能強化を図る。ただし、南部については隣接する医療機関への依存度が高いことから、現行で対応ができていた消化器系の悪性腫瘍を中心に機能強化を図り、他の悪性腫瘍については福岡糸島医療圏、筑紫医療圏を含めた広域圏での対応を原則として考える。現行では悪性腫瘍に関する地域連携の算定がほとんどない状況になっているが、北部の在宅医療ネットワークを基盤として悪性腫瘍に関する地域連携の強化を図る。

- ・ 糖尿病： 入院・外来とも自己完結率を 80%に高めることを目標とする。また、特定健診・特定保健指導事業との連動を強化するため、健診について地区医師会の参画を強化する。
- ・ 精神医療： 精神科救急入院がすべて隣接する医療圏に依存する状況となっている。精神疾患がコモディジースになっていることを考えると、できうる限り二次医療圏内で救急も対応できることが望ましい。圏域内の精神病院との協力及び一般病院における精神科の設置なども含めて、圏域内での精神科救急入院の自己完結率が 30%になることを目標とする。
- ・ 小児医療： 外来については 80%以上の自己完結率になっているが、入院が 30%と低い値になっている。参考資料 1 によると DPC データで見た 15 歳以下の入院患者の平均搬送距離は 10.8km であり県全体の平均より低く、福岡糸島医療圏、筑紫医療圏という都市部に隣接しているという立地条件を考えると広域での対応で十分であるとも考えられる。しかし、小児医療は地域完結が望ましく、したがって 50%を入院の自己完結率の目標とする。
- ・ 周産期医療： 周産期については救急対応が課題であるが、これについては福岡糸島医療圏、粕屋医療圏、宗像医療圏、筑紫医療圏を合わせた広域医療圏での対応を原則とし、この広域圏での自己完結率 100%を目標とし、中核施設の位置づけと連携の在り方について検討することとする。
- ・ 救急医療： 救命救急のような高度な救急医療については福岡糸島医療圏、粕屋医療圏、宗像医療圏、筑紫医療圏を合わせた広域医療圏での対応を原則とし、この広域圏での自己完結率 100%を目標とし、中核施設の位置づけと連携の在り方について検討することとする。その他の一般的な救急については、北部と南部の中核施設を明確にした上で域内での自己完結率を 70%にすることを目標とする。北部については宗像医療圏からの搬送も多いことから、北部の中核施設である福岡東医療センターと宗像医療圏の関連施設（医療機関、介護施設、救急隊など）との連携方法についても明文化する。

## E. 結論

厚生労働省の DPC 公開データと National database を用いて医療計画策定のための基礎資料を作成することを試みた。上記で示したように、それを分析して得られる結果は医療計画をはじめとする公衆衛生行政に非常に役立つものである。平成 18 年の第五次医療法改正以降、疾病ごと・事業ごとに医療提供体制を構築することが求められているが、上記 2 つのデータを活用することでそのための基本的な情報が作成できることが本研究で改めて確認された。

なお、本研究は各都道府県が医療計画を策定する際の視点の参考として、我々が福岡県粕屋医療圏を一つの例として分析したものであり、福岡県による医療計画の見直しの方向性を定めるものではない。各都道府県の担当者はこの分析方法を一つの参考として、各地域における情報基盤の実情に合わせて医療計画の見直しを行うことが求められる。

#### 引用文献

- 1) 伏見清秀 (2006) : DPC データ活用ブック、東京 : じほう.
- 2) 厚生労働省 : 平成 23 年度 第 9 回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会資料 (平成 23 年 11 月 7 日)、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001u23a.html>



表1 主要診断群(MDC)の分類

主要診断群(MDC)	MDC日本語表記
01	神経系疾患
02	眼科系疾患
03	耳鼻咽喉科系疾患
04	呼吸器疾患
05	循環器系疾患
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患
07	筋骨格系疾患
08	皮膚・皮下組織の疾患
09	乳房の疾患
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患
12	女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
14	新生児疾患、先天性奇形
15	小児疾患
16	外傷・熱傷・中毒
17	精神疾患
18	その他の疾患

図2 福岡県の二次医療圏



図3 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別入院患者)

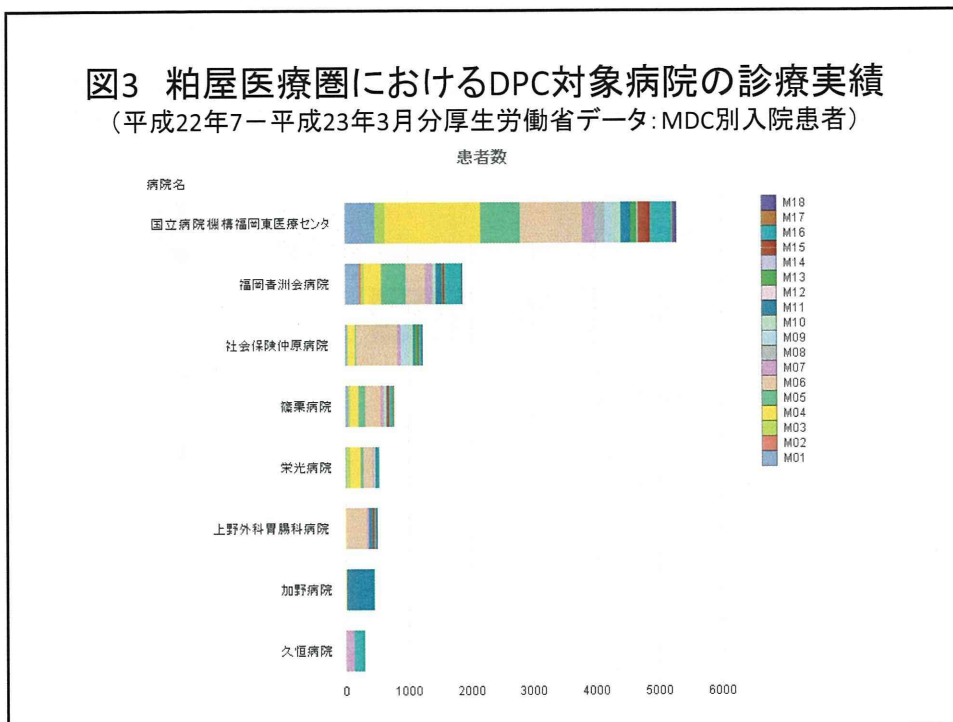


図4 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別全患者)

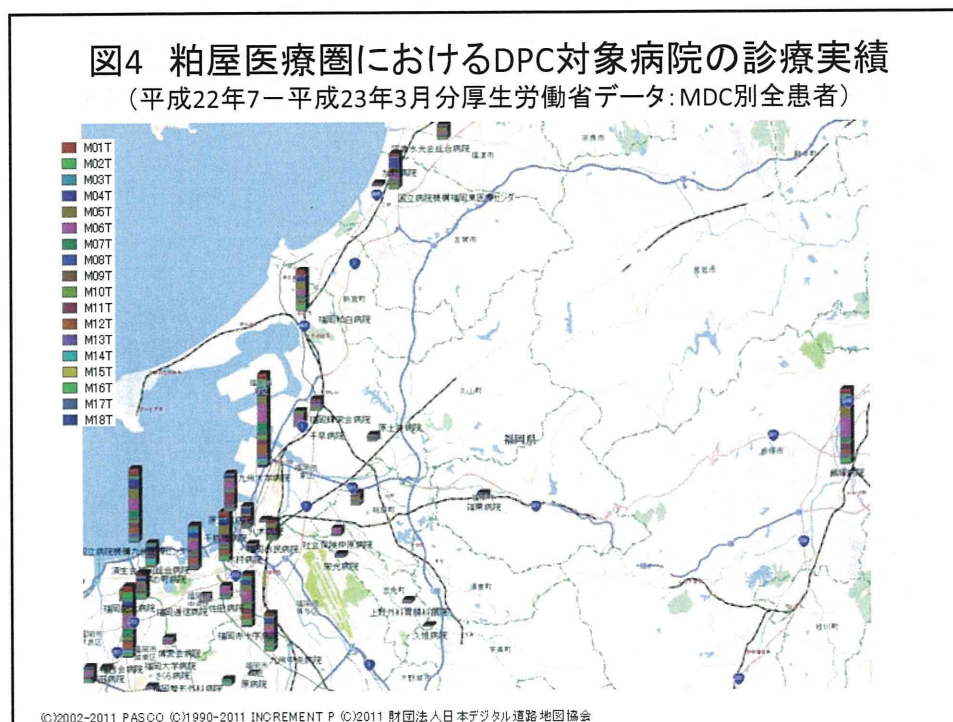


図5 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績

(平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別救急車による全入院患者)

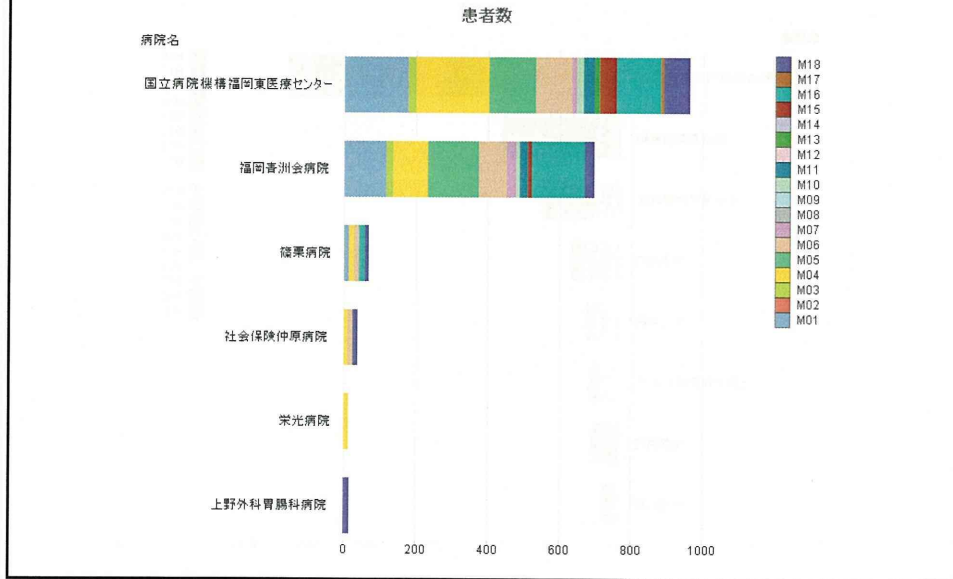
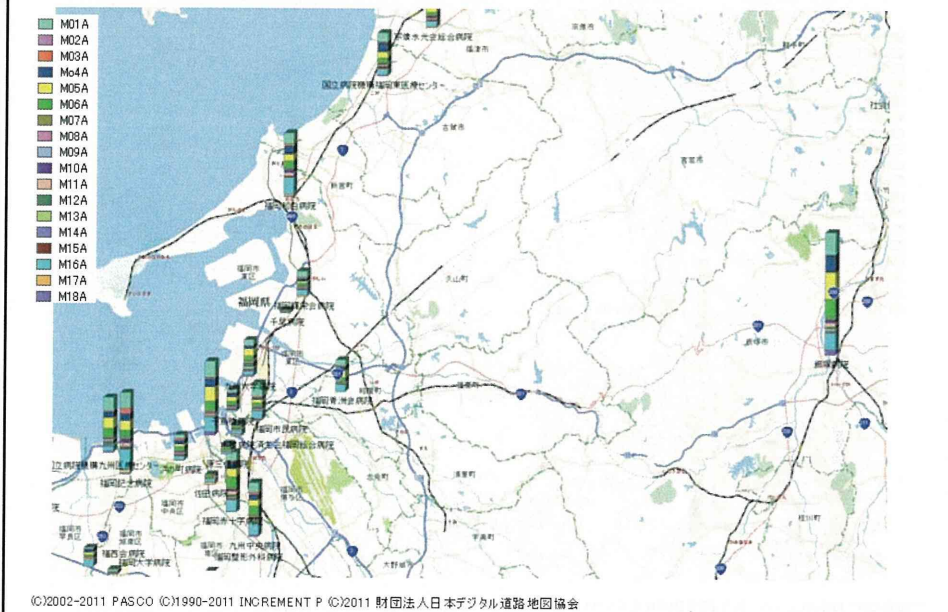


図6 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績

(平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別救急車による全入院患者)



©2002-2011 PASO ©1990-2011 INCREMENT P ©2011 財団法人日本デジタル道路地図協会



図7 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別がんの入院患者)

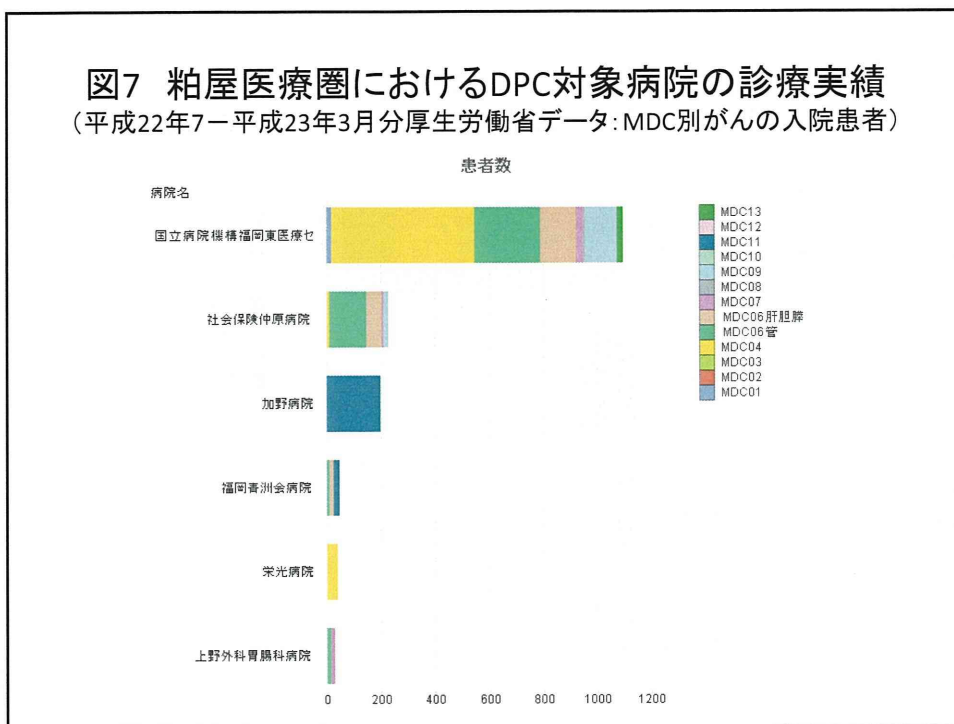
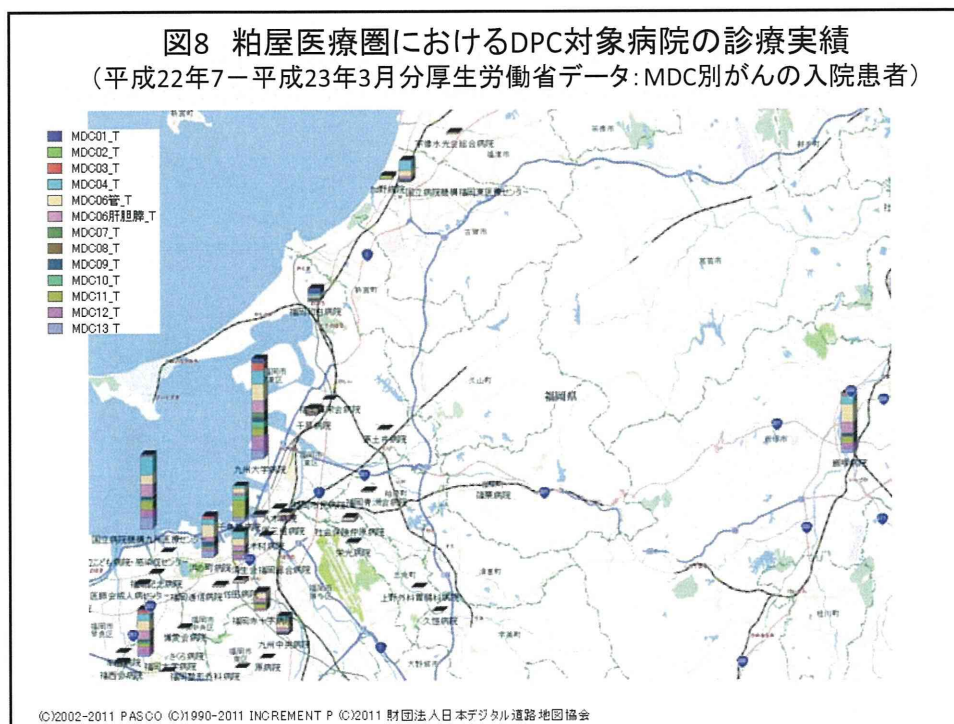


図8 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別がんの入院患者)



©2002-2011 PASCO ©1990-2011 INCREMENT P ©2011 財団法人日本デジタル道路地図協会

図9 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7—平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別がんの入院手術患者)

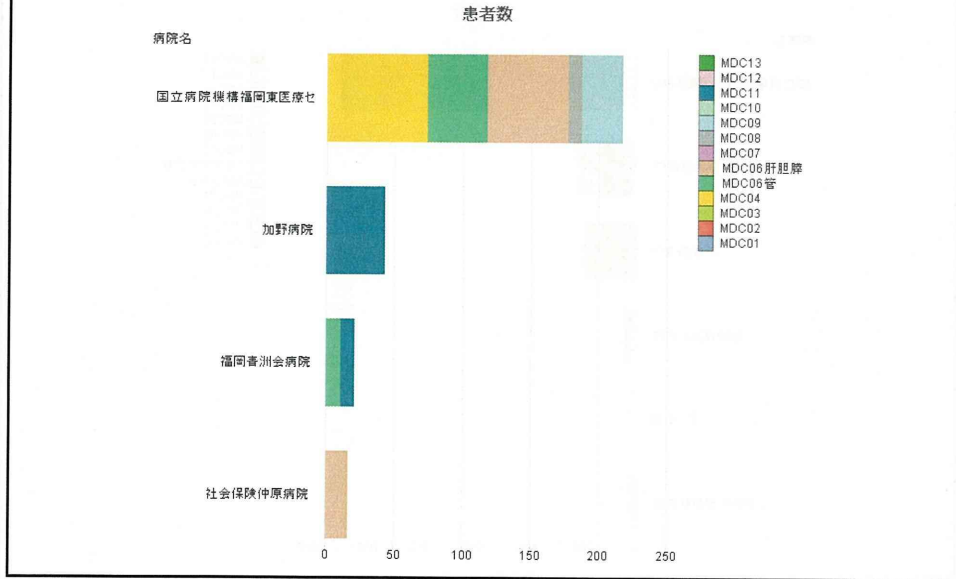


図10 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
 (平成22年7月—平成23年3月分厚生労働省データ:MDC別がんの入院手術患者)

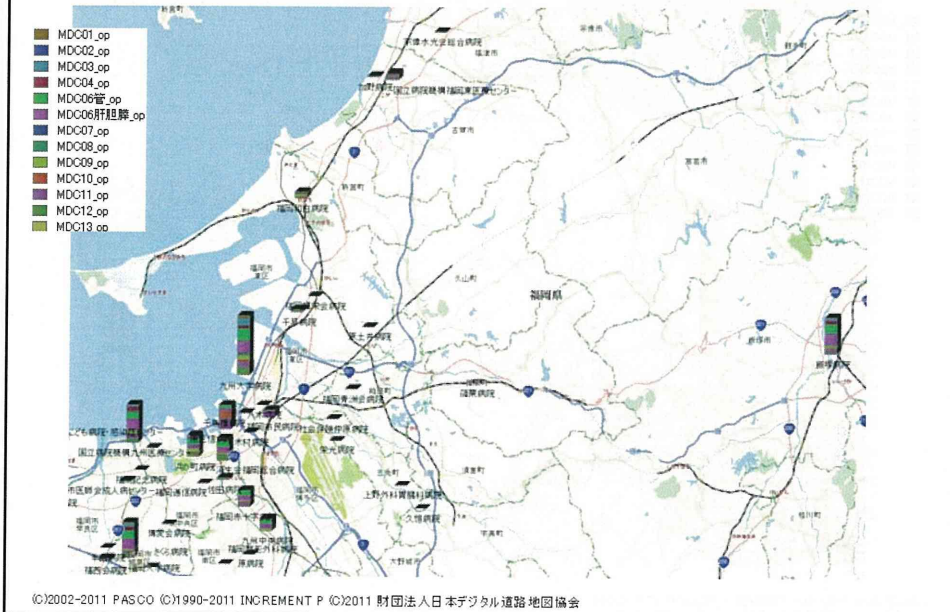


図11 粕屋医療圏におけるDPC対象病院の診療実績  
(平成22年7ー平成23年3月分厚生労働省データ:各病院の特性分析)

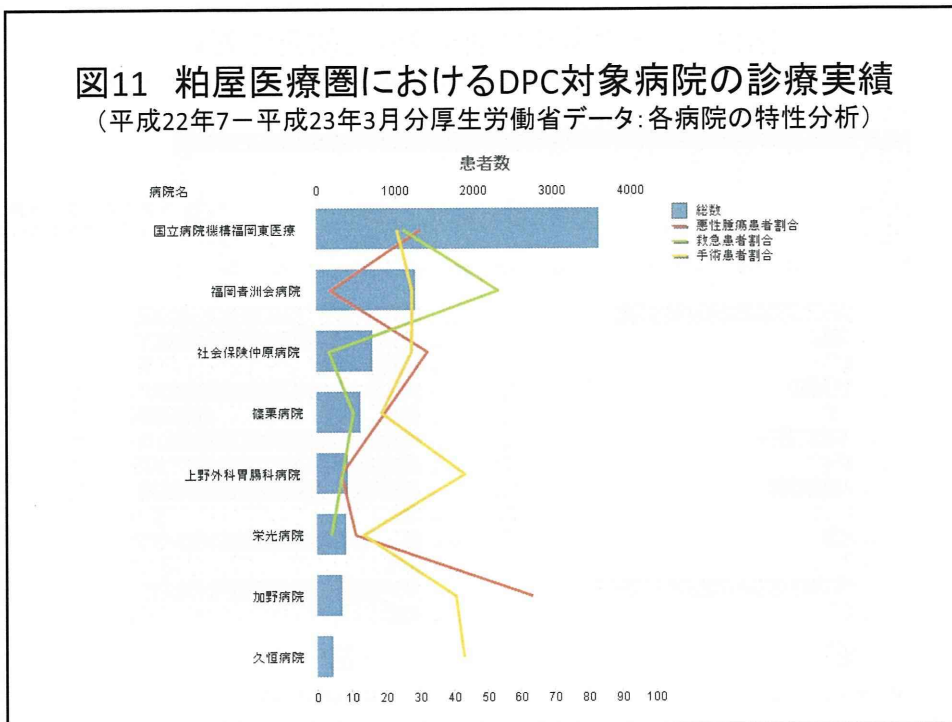


図12 可視化ツールによる分析  
可視化分析ツールを立ち上げ、分析の視点(検索条件)を選択

福岡県版医療計画可視化分析ツール(仮)

検索条件を入力してください

大分類:

中分類:

指標名:

年齢区分:

入外区分:

※ 県内の二次医療圏以外で表示する都道府県名を選択  
(該当データがない場合、選択しても表示されません)

北海道	埼玉県	岐阜県	鳥取県	佐賀県
青森県	千葉県	静岡県	島根県	長崎県
岩手県	東京都	愛知県	岡山県	熊本県
宮城県	神奈川県	三重県	広島県	大分県
秋田県	新潟県	滋賀県	山口県	宮崎県
山形県	富山県	京都府	徳島県	鹿児島県
福島県	石川県	大阪府	香川県	沖縄県
茨城県	福井県	兵庫県	愛媛県	
栃木県	山梨県	奈良県	高知県	
群馬県	長野県	和歌山県	福岡県	全県解除

※表示できる列は22列までです。(それ以上は自動的に削られます)

139 件のデータが抽出されました

レコード抽出    結果シート削除

クロス表                      表示形式

流出                       実数表示

流入                       パーセント表示

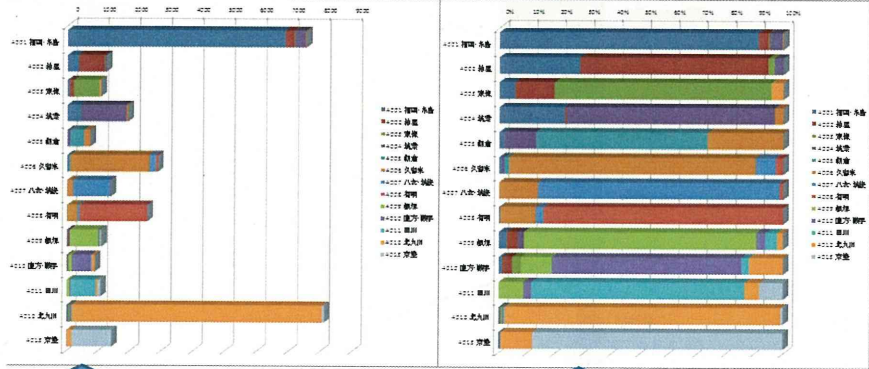
負担者二次医療圏の自己完結率を見る場合には「流出」を選択                      実数表示あるいはパーセント表示を選択                      レコード抽出ボタンをクリックするとシートが作成される



図13 以下の条件で抽出された結果の表示  
 (脳血管障害→脳梗塞→脳梗塞・一過性脳虚血患者(主傷病)→全年齢→入院)

診療科	病名	脳血管障害	脳梗塞	脳梗塞・一過性脳虚血患者(主傷病)	全年齢	入院
4001 脳梗塞	4001 脳梗塞	274	86	516	24	7987
4002 脳出血	4002 脳出血	224	24	48		1542
4003 脳腫瘍	4003 脳腫瘍	59	146	216		1062
4004 脳神経腫瘍	4004 脳神経腫瘍	444	12	1412		1927
4005 脳脊髄液	4005 脳脊髄液	12		21	442	198
4006 脳脊髄液	4006 脳脊髄液	27		28	42	2551
4007 脳脊髄液	4007 脳脊髄液	18		28	124	1174
4008 脳脊髄液	4008 脳脊髄液	21	41	26		2148
4009 脳脊髄液	4009 脳脊髄液	11	21	26		942
4010 脳脊髄液	4010 脳脊髄液	44	16	96		600
4011 脳脊髄液	4011 脳脊髄液	11				247
4012 脳脊髄液	4012 脳脊髄液					64
4013 脳脊髄液	4013 脳脊髄液					162
4014 脳脊髄液	4014 脳脊髄液					1418
4015 脳脊髄液	4015 脳脊髄液					61927

各負担者二次医療圏の自己完結率を表示



実数表示のグラフ

%表示のグラフ

図14 以下の条件で抽出された結果の表示  
 (脳血管障害→脳梗塞→脳梗塞・一過性脳虚血患者→全年齢→外来)

診療科	病名	脳血管障害	脳梗塞	脳梗塞・一過性脳虚血患者(主傷病)	全年齢	外来
4001 脳梗塞	4001 脳梗塞	416	41	516	15	46
4002 脳出血	4002 脳出血	1721	4848	717	11	16
4003 脳腫瘍	4003 脳腫瘍	969	291	2422	14	16
4004 脳神経腫瘍	4004 脳神経腫瘍	2264	48	17676	48	12
4005 脳脊髄液	4005 脳脊髄液	24		271	427	54
4006 脳脊髄液	4006 脳脊髄液	124	48	273	261	16226
4007 脳脊髄液	4007 脳脊髄液	24		28	427	116
4008 脳脊髄液	4008 脳脊髄液	48	41	12	21	10226
4009 脳脊髄液	4009 脳脊髄液	117	41	12	21	3244
4010 脳脊髄液	4010 脳脊髄液	48	182	242	14	247
4011 脳脊髄液	4011 脳脊髄液	48	24	242	17	224
4012 脳脊髄液	4012 脳脊髄液	174	24	242	17	224
4013 脳脊髄液	4013 脳脊髄液	27				16
4014 脳脊髄液	4014 脳脊髄液					16
4015 脳脊髄液	4015 脳脊髄液					16

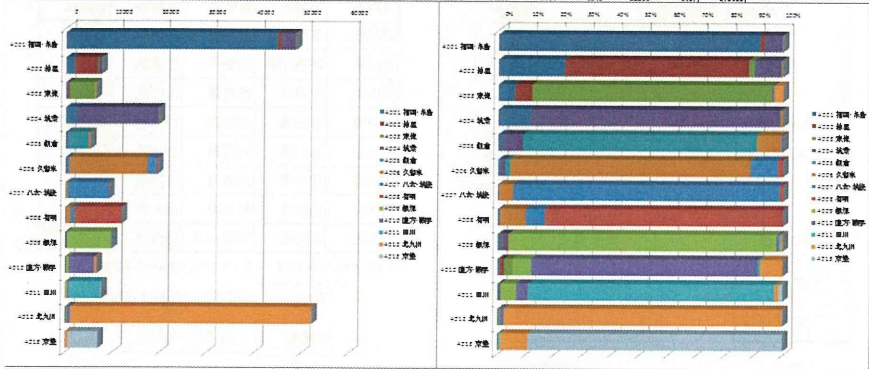


図15 以下の条件で抽出された結果の表示  
(脳血管障害→くも膜下出血→くも膜下出血患者(主傷病)→全年齢→入院)

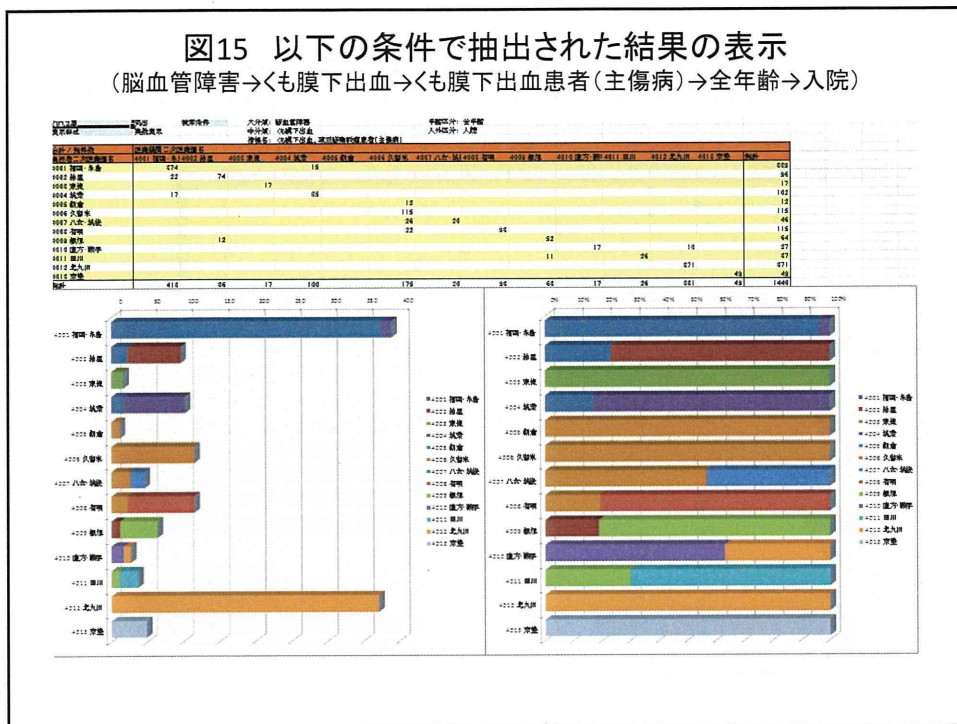


図16 以下の条件で抽出された結果の表示  
(心疾患→急性心筋梗塞→急性心筋梗塞発症患者(主病名)→全年齢→入院)

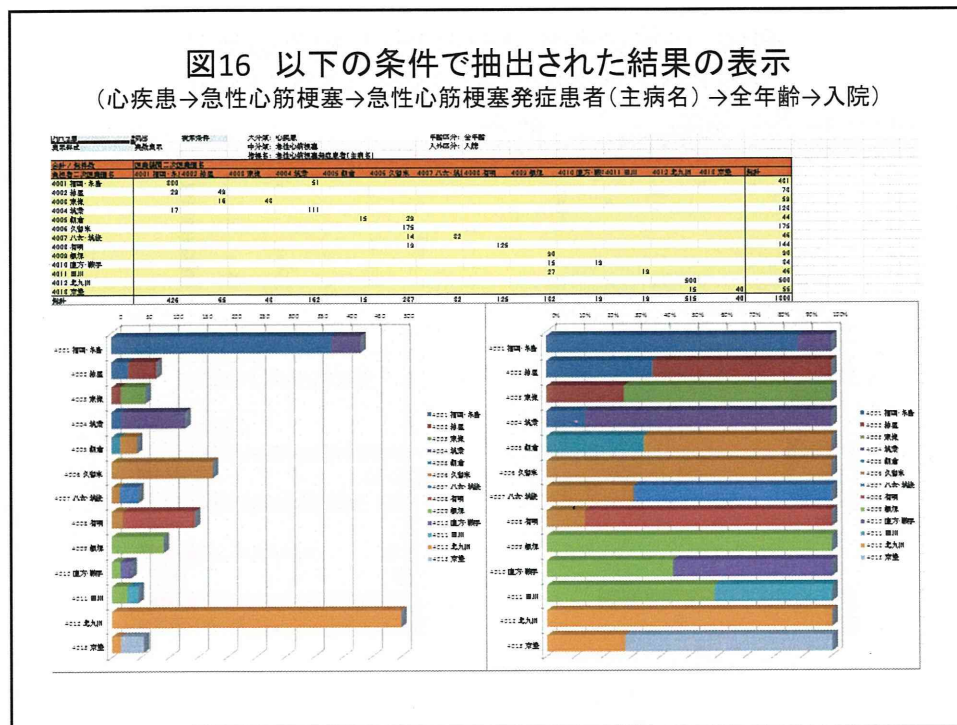


図17 以下の条件で抽出された結果の表示  
(心疾患→急性心筋梗塞→急性心筋梗塞に対するカテーテル治療→全年齢→入院)

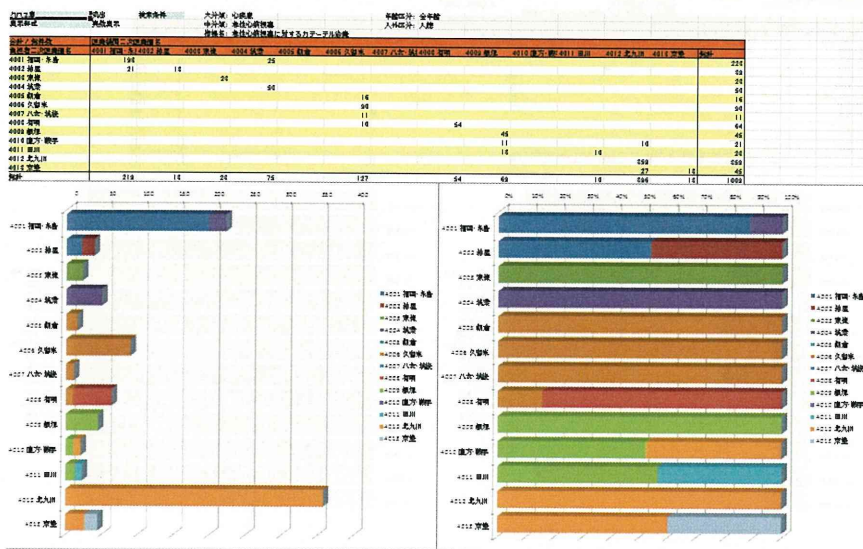


図18 以下の条件で抽出された結果の表示  
(がん→肺がん→肺の悪性腫瘍(主傷病)→全年齢→入院)

